

ケイトウ
Celosia cristata
(ヒユ科)

熱帯・亜熱帯原産の1年草で、暑さに強く、寒さに弱い。花冠が玉状のトサカゲイトウ(久留米系)と槍状のフサゲイトウ(羽毛ケイトウ, 八千代系)がある。鶏冠状の花は茎が変形した鱗片で、丈夫で、長持ちする。本来の花は花冠の基部に密生している小花で、目立たない。長く観賞していると種子が稔り、落ちることがある。水あげはよいが、葉が弱く、花冠より先に萎れ、垂れる。
日持ち終了の主な症状は、葉の萎凋、黄変である。

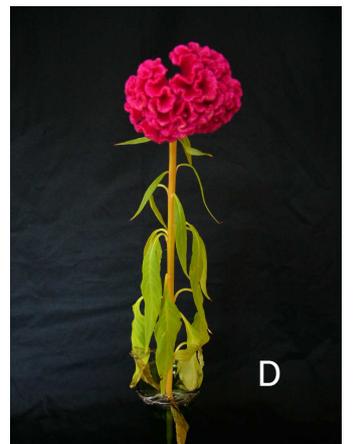
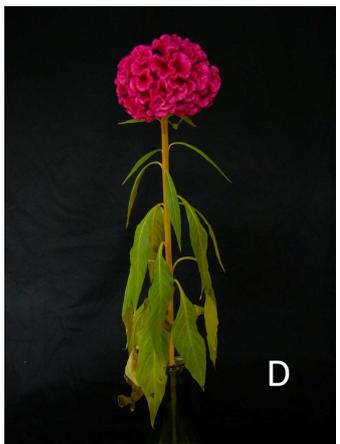
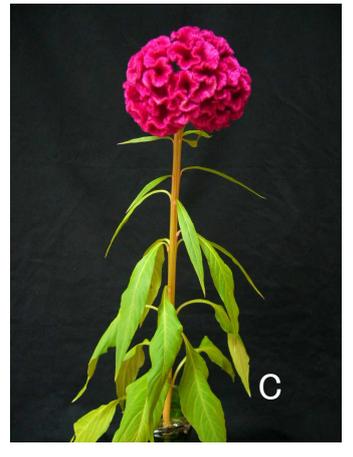
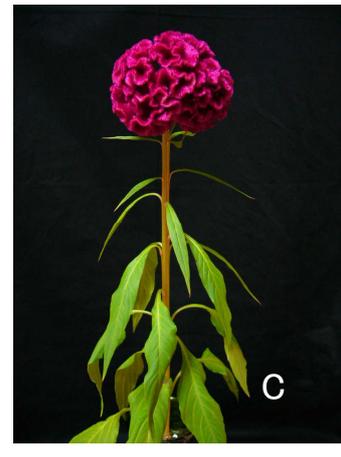
1) 品質評価基準

項 目	判 定 基 準	備 考
葉の萎凋	A: 張りがあり, 水平より上を向く B: 張りはあるが, 水平よりやや垂れる. 葉脈がやや目立つようになる C: やや萎凋し, 垂れ, やや黄変する D: 萎凋し, 垂れる. 黄変し, 一部が褐変することがある	
花冠の変形・変色	花冠を裏から見ると, B: 鱗片の一部が垂れる C: 鱗片が垂れ, 花冠がやや下を向き, 変形する D: 花冠が変形し, 下を向き, 変色(褐変)する	
その他		

2) 留意点

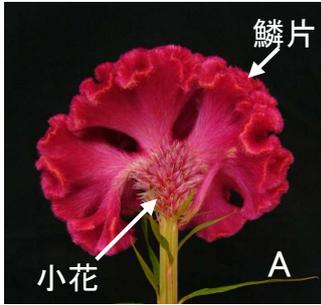
下葉は取り去り, 水に浸からないようにする。

3) 開花



4) チェック事項

裏から見た花冠



葉の萎れ

